

「安心・活力・発展プラン2005」 第1回活力部会 委員発言要旨

日時:平成26年7月11日(金)10:00~12:00

場所:トキハ会館5階「カトレア」

No.	項目	発言要旨
1	農林水産業	就農学校の取組は県内各地で始まり卒業生が就農しているが、まだまだ少ない。もっとスピードを上げて新規就農者を確保していかないと、今の人口減少社会では担い手の確保が追いつかないのではないかと。
2		農業でも一定規模になると雇用が必要。働ける人口の少なくなった農村部が活力を取り戻すためには、一緒に働いてくれる外国人労働者、実習生の力を利用していかねばならないと思う。
3		トマトのブランド化により、1億円をそのブランド商品が占めるようになった。県外にも多く出荷している。ブランド化だけで売れるわけではないが、ブランド化には非常に大きな功績があったと思う。
4		園芸用ハウスのリース事業は現在大分県農業農村振興公社が事業実施主体でしてくれているが、本来は農協がしてくれるといい。指導はできないか。
5		担い手への優良農地の斡旋が必要と思う。早い段階で仕組み作りを。
6		かぼすヒラメ、かぼすブリなど県外に発信しているが、地域の業界にも地産地消の情報を教えてほしい。どこにいけば手に入るのか、我々旅館も使えるのか、流通はどうか、などを教えてほしい。
7		かぼすブリなどを出しているお店の宣伝や、どこで食べられるのか、などの情報発信をして、アクセスしやすい状態にしてはどうか。
8	農林水産業 商工業	新たに起業しようとする人は機械が欲しくても値段が高くて買えない。水産研究部の施設は古く、稼働率も低いように思える。設備、場所を提供してほしい。小さな産業を大事にしてもらいたい。
9	農林水産業 海外戦略	トマトの海外輸出はこれから考えていかねばならない。
10	農林水産業 食育	大分県の食材にはいいものが多いが、料理そのもののレベルが高いとはいえない。レストランなどでの新しいメニューの開発、県産品を使ったものなど、メニュー開発の奨励や支援をしてはどうか。
11	商工業	企業の経営者がもう一つ上の段階を目指す時の教育・経験が足りない。大分は1億円以下の会社が多い。1億円、3億円になれるような経営者向けの教育支援はできないか。
12		県内の人を採用した企業にメリットがあるような施策を組んでももらえないか。

No.	項目	発言要旨
13	商工業	外国人労働者の受入れについて、今はハードルが高い。専門的知識を持っていて、日本人よりも優秀な人にしかビザがおりない。外国で教育を済ませた人を連れてくれるような仕組み、外国人がブルーカラーで働ける施策はないか。
14		事業をするときに大分の産業をうまく使うような仕組み、もしなければせめて国内のものを使うといった施策ができないか。
15		人材のマッチングは難しいと思うが、どこでも人材が足りないと聞いている。働く環境や賃金の問題も含め、事業としてもうまく作り出していくという意識が必要ではないか。Iターン・Uターンのためにも、賃金の問題は考えていく必要がある。
16		県内には優秀な人材はいるが、マネジメントができる人、管理者になれる人が少ない。人に指示できたり、物事を的確に整理するという能力を教育できないか。
17		佐伯はアパート・マンションの価格が高く、若い人がなかなか家から独立できない。地元の新卒者を採用した場合のメリットを付加するというのはいい案。就業後3年を目安にして、支援ができないか。
18	ツーリズム	旅は個人化、少人数になる傾向にあり、滞在型になっている。目的・テーマを持っている人が多く、高級志向が増えている。これからはひとつの拠点をもち、そこから面的に広げていくスタイル、アクティビティコースを充実させることが大切なのではないか。
19		女性とアクティブシニアをターゲットにしたコース作りをしてみてもどうか。出雲大社縁結びのようなパワースポットは大分にも一杯ある。うまく伝えていって地域に呼び寄せてはどうか。
20		湯布院から別府はすごく遠いイメージを持っているが、実は30～40分で行けるとかは意外と知られていない。このあたりのところを、関西方面へのプロモーションとしてどう情報発信するかを検討していくべき。
21		地産地消は魅力。地元の食材を使った料理、地元のお酒、麦焼酎。おんせん県おいたのウィーク、マンスリーとかを作って、大分みんなで一緒になって稼ぐ、というのはどうか。パワーを集中させて情報発信していく。
22		2次交通について、別府には一日乗り放題のぐるすば号(路線バス)がある。平成23年にスタートし25年で乗客が2倍になった。乗り合いバスで2倍というのは奇跡的。国東や県南ともつなぐことができないか。路線バスを使って活性化というのもポイントになる。
23	医療	県外から大分県に来て不安を感じたことは医療。救命救急センターやドクターヘリなど、もう少し安心できるような医療体制を整備して欲しい。
24	食育	企業向けの福利厚生として、メニューを考えている。健康に気をつけた食事をしましょうというセミナーや社食のメニューを考える、など。一般のレストランでも健康メニューを置いているところを支援してはどうか。県の野菜や魚、肉とかを使っているところと協力してみてもどうか。
25	人権	女性の活用について、自由な時間に働くというのは大切だが、責任ある地位で働くという意味でも女性の活用も考えていく必要があるのでは。女性の方にも意識が足りない。自分の人生のやりがい、生きがいとしてきちんと職業を持つ、きちんと社会に参画していくことが大事。